

# 4 戦国武田氏を支えた伝説の金山

早川町

早川町域は古くから金や森林資源が豊富な地域であった。県南部の河内領と呼ばれるこの一帯では、特に戦国時代から江戸時代はじめにかけて、金山の採掘が盛んに行われたが、これは領主の穴山信友(武田家家臣)が金山経営に力を入れたためである。領内の金山遺跡としては毛無山一帯に広がる湯之奥金山遺跡(身延町・国指定史跡)がよく知られるが、早川流域の黒桂金山や保金山などでも採掘が盛んであったことが文献資料からうかがえる。穴山氏は、この信友の頃に南部から下山に本拠地を移したが、これは金をはじめとする豊富な天然資源が早川町一帯にあり、下山がここへの入り口にあたる場所だったこともその理由のひとつだと言われる。

ちょこっと  
より道

## 西山温泉

飛鳥時代に発見されたとの伝説が残る温泉。徳川家康や穴山氏が入湯したと伝えられる。穴山氏により湯王権現に寄進されたといわれている罅口が早川町指定文化財。

## 1 茂倉鉱山

明治から昭和にかけて金銀銅や石膏の採掘が行われた。前山・後山の2つからなる。当時の石積みやトロッコ線路の跡が残る。坑道入口は現在コンクリートでふさがれている。



## 3 武士墓場

早川と黒桂に武士の流れをくむ対立する2家があった。両家の弓による力比べで亡くなった黒桂の武士の墓と伝わる。墓石には「南無妙法蓮華経」や「永享十戊午年」などと刻まれている。永享10年(1438)は町内に残る文字でもっとも古いもの。



## 2 早川町郷土資料館

早川町の歴史や伝統工芸を展示する資料館。建物は国登録有形文化財「旧三里村役場」をそのまま使用している。六角窓やS字瓦がおしゃれ。



## 10 御料平遺跡

縄文時代前期・中期の土器や石を並べた配石遺構が見つかった。

## 4 保金山

穴山氏によって採掘が始められたと伝えられる。用水路や幹線道路がかつての様子を伝える。



## 5 奥沢金山

江戸時代から昭和にかけて金の採掘が行われた。軌道跡や坑口などが残る。奥沢金山のある硯島地区には他にも多くの廃坑や墓石が残されている。

## 9 妙福寺

もとは真言宗の寺だったが、日蓮聖人と波木井実長が宿泊したことをきっかけに日蓮宗に改宗した。七面山敬信院の鍵を管理したということで、「鍵取り妙福寺」とも呼ばれる。

## 6 東陽寺

身延町にある龍雲寺の末寺。金谷山という山号であり、金山経営に関わりがあった可能性がある。



## 7 見神の滝

2段目の滝つぼに金があるという伝説が残る。



## 8 赤沢宿

身延山から七面山に参る客が泊まった宿場。江戸時代から昭和初期まで栄え、現在もその町並みが保存され、木造の民家や旅館が残る。国重要伝統的建造物群保存地区。



6-1 みのぶ道マップもチェック